

提 言① (プロジェクト I)

スポーツ社会学の視点からのスポーツ アスリートを育成するための提言

プロジェクト I 担当委員 (※プロジェクトリーダー)

宮西 智久 (仙台大学、運営委員) ※

田中 ゆふ (近畿大学、運営委員)

平野 裕一 (法政大学、運営委員会代表)

提 言① (プロジェクト I)

全日本野球協会から本会へ求められた具体的なミッションは、
「スポーツマンシップ、マナーなどスポーツが持つ
人材育成の観点から、今後、日本野球が良き発展を目指し、
選ばれる競技になっていくための道しるべとなるよう
提案を行う」ことであった。

提言① (プロジェクト I)

野球の成立要素 (①プレイヤー / ②場所 / ③ルール /
④用具 / ⑤コーチ / ⑥アントラージュ・運営) の観点から、

人材育成の観点から、今後、日本野球が良き発展を目指し、

選ばれる競技に → “肯定的要因”を挙げるよりも、

提案を行うことであつた



①スポーツを始めるのに“**野球を選びたくない!**”

②野球を選んだものの“**野球を続けたくない!**”

“**否定的要因**”を洗い出す!!

提 言① (プロジェクト I)

“野球を選びたくない”

《 ① プレイヤー 》

- ・ 多種多様で高度な技術が求められる (難易度大)
- ・ 早熟が優遇される
- ・ 上下関係が厳しい

《 ③ ルール 》

- ・ レギュラーか否かになる
- ・ プレイの結果が個人の責任になる

《 ④ 用 具 》

- ・ 用具、グッズが高い

《 ② 場 所 》

- ・ 練習場所が狭い、遠い
- ・ サーフェスが悪い

“野球を続けたくない”

提 言① (プロジェクト I)

“野球を選びたくない”

《 ⑤ コーチ 》 (競技力向上のための指導性)

- ・ 練習時間が長い
- ・ 人数が多くて練習できない
- ・ 練習内容が画一的
- ・ 技術練習ばかりで楽しめない
(試合が少ない)
- ・ 体力的な向上が見込めない
- ・ 障害を受けやすい
(投球過多、長時間練習強要)
- ・ 高圧的な物言い (怖い)
- ・ 暴言、暴力 (体罰) が多い
- ・ 結果がすべてで過程を評価しない
(勝利至上主義)
- ・ 経験やカンに偏った指導
(精神・根性論)
- ・ 年代毎なので、将来を見据えた一貫指導をしてくれない：目先の勝利にこだわる

“野球を続けたくない”

提言① (プロジェクト I)

《 ⑤ コーチ 》 (社会性)

- ・ 集団行動が強調される
- ・ 個を蔑ろにし、主体性や自主性を身につけさせない (滅私奉公)
- ・ 礼儀、マナー、規律 (服装、頭髪他) にうるさい

“野球を続けたくないよ～”

《 ⑥ アントラージュ・運営 》

- ・ コーチが仕切っている
- ・ 説教が長い
- ・ 周囲が過剰に反応し介入する (加熱・肥大化、期待し過ぎ)
- ・ 親の負担が大きく、手間がかかる
- ・ 会費が高い

“野球を選びたくないよ～”

提 言① (プロジェクト I)

❖ コーチの役割と使命 (職務) : 6点

① ビジョンと戦略の構築

プレイヤーとコーチの両者が納得できる**ビジョン**を設定する
ビジョンを達成するための**戦略**では、

- どのような**コーチングスタイル** (リーダーシップ論) をとるべきか？
- **ステークホルダー** (利害関係者) は誰で、どのような関係性をもつべきか？

を考える

提 言① (プロジェクト I)

❖ コーチの役割と使命 (職務) : 6点

②環境の設備

安全と予算を確保する

- ・グラウンドと用具の確保
- ・保護者の協力、有能な (ライセンスを持った) コーチング
スタッフの採用
- ・育成システムの整備

提 言① (プロジェクト I)

❖ コーチの役割と使命 (職務) : 6点

③ 人間関係の構築

プレイヤーとアントラージュとの良好な人間関係の構築

④ 練習での指導と競技会への準備

発育発達を含め、健康・スポーツ科学の知識や知見を活用し、精神論
(根性) や暴力ではない真の勝利至上主義 (勝利の追求) を目指す

提 言① (プロジェクト I)

❖ コーチの役割と使命 (職務) : 6点

⑤ 現場に対する理解と対応

- ・ 様々な手段を用いて情報を収集し、多角的に分析する
- ・ 現場に育まれた「文化」を読み取る
- ・ プレイヤーの背景 (家庭、交友関係、地域性、運動経験) を理解する

⑥ 学習と振り返り “学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない”, R.L.

- ・ 次のコーチングの質を高める努力をし続ける
- ・ 新しい知識やスキルを得るために学習する
- ・ 自らの思考や行動を省察する
- ・ **コンピテンシー (※)** を高める

※優れた成果を修めるための素養 (専門と教養)

提 言① (プロジェクト I)

❖ 学術文献の調査・まとめ

研究成果を年代別に並べ、要素を抽出する (※カッコは対象年代の指導者・親)

- 体育学研究 36件
- スポーツ産業学研究 6件
- スポーツ心理学研究 5件
- 発育発達研究 4件
- スポーツ方法学研究 3件
- コーチング学研究 1件
- スポーツ社会学研究 1件
- その他 11件 (学術書含む)

提 言① (プロジェクト I)

❖ 育成ガイドライン—コーチの立場から

- ・ **競技力向上**と**社会性習得** (ライフスキル) の**ダブルゴール**を目指す
- ・ 発育の性差・個人差を理解して練習・試合をする
- ・ 多種類の運動を多様なプログラムで練習する
- ・ 仲間づくりをして主体的に練習させる
- ・ できるようになるための練習法を具体的に提示する
- ・ 結果ではなく、練習のプロセスを重視する
- ・ アントラージュと良い関係を保ち、現場を開放する
- ・ **スポーツドロップアウト** (バーンアウト) の防止策を講じる
- ・ **スポーツマンシップ** (“人格陶冶”、スポーツ成立史・教育的意義・価値・倫理・行為規範) の真意を理解し、習得させ実践させる

提 言① (プロジェクト I)

❖ 育成ガイドライン—コーチの立場から

・ **競技力向上**と**社会性習得** (ライフスキル) の**ダブルゴール**を目指す

《ライフスキル》日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力 (WHO)

- ① 意志スキル
- ② 問題解決スキル
- ③ 創造的思考
- ④ 批判的思考
- ⑤ コミュニケーションスキル
- ⑥ 対人関係スキル
- ⑦ 自己認知
- ⑧ 共感的理解
- ⑨ 情動に対処するスキル
- ⑩ ストレスに対処するスキル

・ 発育の性
・ 多種類の
・ 仲間づく
・ できる
・ 結果で
・ アント
・ スポー
・ スポー

価値・倫理・行為規範) の真意を理解し、習得させ実践させる

提 言① (プロジェクト I)

❖ 提 言

- 育成ガイドライン
- 年代別の練習ドリル

を作成して、**ジュニア・コーチ**に配布する